

介護老人保健施設 ライフサポートひなた

川本 裕幸(入所介護・看護部 主任)

功 績 入所フロアでは体操、レクリエーションの提供を行う事になってはいるが、昨年度、人員不足や業務量の影響、スタッフ1人1人の意識の薄さが関係しており、満足のいく体操、レクリエーションが提供出来ていなかった。そこで、部門目標に「体操、レクリエーションの提供」を組み込みフロア全体で取り組み、今年度、業務内容の見直し、勤務時間も変更し円滑に体操、レクリエーションが提供できる様に環境を整えた功績。

推 薦 者 佐野 良一

推 薦 理 由 入所者のQOLの向上、施設生活を充実して過ごして頂く事を目的に業務の見直し、勤務時間の検討を行い、レクリエーション、体操が円滑に利用者様に提供出来るよう取り組み成果を出している。この取り組みを理事長賞に推薦します。

内 容

自部署の部門目標を設定する際、満足のいく体操、レクリエーションの提供が出来ていないとの課題があった。実際、午前中には体操のDVDを流すのみ、午後にはレクリエーションが提供出来ておらず、利用者さんも座っているだけの姿が見られていた。

そこで、川本は部門目標に「体操、レクリエーションの提供」を掲げ、スタッフに意識づけを行った。するとフロアスタッフの人事考課の個人目標では体操やレクリエーションの提供に関しての目標設定がされており、意識づけに繋がった。次に業務内容、勤務時間の見直しを行った。体操、レクリエーションの提供を行う際には1人コール対応の出来るスタッフを配置しなくてはならない。その為に遅番の出勤時間を30分早めるように勤務時間を変更した。

そうする事で午前も午後も体操、レクリエーション提供時には1人コール対応者が確保出来るようにした。又、早番、遅番、日勤のタイムスケジュールを作成した。タイムスケジュールを作成する事で、各勤務者の役割を明確にし体操、レクリエーションの提供がスムーズに行えるようになった。体操、レクリエーションの実施率を分かりやすく確認出来るようにエクセルにて実施・未実施のチェック表も作成した。

昨年度まで、午前中の体操ではDVDを流しているだけであったが、スタッフが前に出て声掛けをしながら体操を行う事で、利用者さんも一緒に身体を動かしている姿が見られている。体操中もコール対応を出来る様にスタッフを配置している事で、スタッフが体操と利用者さんに集中して取り組んでいる。午後にもレクリエーションを率先して提供するスタッフの姿が見られるようになった。利用者さんも笑顔で参加する姿が見られ活性化している。